



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jim@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎県を牽引していく!」
～経営を極めていく企業家集団 会勢700名を達成しよう～

2016年度 役員研修会 開催

日時：9月10日(土) 13:30 会場：諫早観光ホテル 道具屋



2016年度役員研修会を諫早観光ホテル道具屋にて開催。室長を田口事務局員が務め、握手タイム、そして大村支部 時忠行さんのスローガン唱和の後、松尾代表理事が挨拶されました。今回、座長を専務理事の西村浩文さんが務め、三名の方から報告をいただきました。

泉相談役からの「同友会の歴史、理念を学ぶ」を拝聴し、先輩方の熱意・頑張りのお陰で今日同友会があるのだと再認識しました。と同時に、今在籍している若い人達にこの素晴らしい会を引き継いでもらいたいという強い使命感が湧いて参りました。

次に金井副代表理事から「企業内実践と企業づくり」というテーマで報告をいただきました。企業内実践と

して朝礼を始められたという事です。我社では朝礼を行った後握手タイムとしています。社員全員と握手する事により最低1日1回は顔を合わせる事ができます。皆さんも朝礼と握手タイムを実践してみてはいかがでしょうか？

最後に松尾代表理事より、総括をしていただきましたが、私が強く感銘を受けたのは出来ない事に取り組む事がチャレンジ、そして「出来る事から始める」という文言です。多分、松尾代表の経営理念を通してのではないかと勝手ながら想像してしまいました。

グループディスカッションでは5テーブルのまとめとして会員さんの為に動くのが役員の仕事、次の世代に役員としての継承をする為にも色々学んで欲しい、学ぶ場所へ出向いて欲しい、多くの方々に出逢って欲



目次

2016年度 役員研修会 開催	1	佐世保支部 ダイバーシティ経営委員会主催 視察ツアー 開催報告	14
9月例会報告	2	会員活躍	15
2016年度 第1回 中同協 経営労働委員会 参加報告	10	事務局企業訪問	16
中同協 第44回 青年経営者全国交流会 in 石川 参加報告	10	入会・交代会員紹介	17
私たち、がんばってます!～新入社員奮闘記～	12	11月例会案内	18
長崎浦上支部 共育委員会 リーダーシップセミナー 開催報告	13	理事会議事録 抜粋	19
諫早支部 産学連携委員会 学生と経営者懇談会 開催報告	13	会員消息・会員数	20



しいと願うと共に、自分達もそれを実行できる役員でありたいと思いました。

第2部懇親交流会では司会を佐世保支部 前川優也さんが務め、五島支部 辻千穂子支部長の乾杯で始まりました。途中にはランダムでの決意表明タイムを行い、一本締を私が右肩上りで締めました。



さて、最後になりますがこのような研修会に出席出来るのも事業がうまくいっている証拠だと思います。来年は参加者が増えますよう、お互い切磋琢磨して、同友会並びに長崎県を盛り上げていきましょう。

(文責 副代表理事 辻村 栄蔵)

長崎浦上支部 例会報告

日 時	9月23日(金) 18:00
会 場	サンプリエール
テ ー マ	行動することで自分を変え、世界を変える ～視覚障害が教えてくれたこと～
報 告 者	(株)ユニバーサルスタイル 代表取締役 初瀬 勇輔 会員(東京同友会)



初瀬さんは佐世保市出身で元々健常者でありながら、大学時代に失明し、視覚障害者になりました。その後、失意の底にいましたが、中学・高校時代に取り組んでいた柔道を再開することにより、自信を取り戻し、今では障害者コンサルティングの会社を起業するに至っています。

本例会ではそうした初瀬さんの生い立ちから障害者に至るまで、そしてその後について「起業家」「アスリート」「競技サポーター」の3つの視点からお話いただき、初瀬さんが自ら歩んできた実体験を元に、行動力の持つ可能性についてお話いただきました。

また、初瀬さんは北京パラリンピックに出場経験もあり、オリンピック・パラリンピックの余韻が残る中で、参加者の皆さんに金メダルと銅メダルを直接触っていただき、パラリンピックについて熱くお話いただきました。パラリンピックにおいて公平に競技が行われるために行う障害の種類・部位・程度によるクラス分けなどのお話しやパラリンピックでのパフォーマンスの映像を通して、障害者と言っても様々であるこ



とを知り、障害者雇用に対する考え方の幅が広がりました。

そして、報告時には参加された方の障害者に対する先入観を払拭するほどの障害者とは思えない素晴らしい立ち振る舞いで、元々健常者であったこともあり、障害者を身近に感じ、障害者にいい印象を持つことができる良い機会になりました。

今回、実際に行動することによって、立ち直るきっかけを得たというお話しを聞き、自身の立場に置き換えてみて、自らの行動力の弱さを感じると共に、今後の行動指針の参考となりました。

障害は一つの個性と捉えることができます。そして、個人として向き合い、的確な環境整備や業務分掌を行うことにより、障害者雇用が成立します。的確な環境整備や業務分掌は障害者雇用だけでなく、今後の企業経営でも同様に必要なことです。本例会では障害者雇用についてだけでなく、行動が起こす可能性や雇用における的確な環境整備や業務分掌について考えることができる学びの場となりました。

(文責 中尾 陽一郎)



長崎出島支部 例会報告

日 時	9月21日(水) 18:00
会 場	サンプリエール
テ ー マ	同友会そこまで言って委員会
パネラー	金子 寛道 会員 大崎 悠史 会員 加瀬 和利 会員 吉田 大祐 会員 飯田 義則 会員 中村こずえ 会員
コーディネーター	山口 憲男 会員



本来山口奈津江さんの報告予定でしたが、都合により急遽パネルディスカッション形式の例会となりました。

例会内容の変更が5日前で準備期間が短かったため、①過去の例会DVDを流す ②他支部の最近の報告者に依頼 ③普段の例会で出来ないような内容の例会を行う。など急遽報告者が報告出来なくなった際の対応マニュアルの作成の必要性が話し合われる「例会準備」についても意味ある例会となったようです。

パネルディスカッションは●会歴が長い会員2名 ●積極的な班活動を行っている若い班長2名 ●支部長、第一副支部長の6名にパネラーを務めていただきました。テーマは「同友会に入会した動機」から始まり「仲間づくり・例会出席率への考え方」「例会後の懇親会・二次会の考え方」等を中心にいかに支部を盛



り上げていくかでした。

「同友会を辞めようと思ったことはありませんか?」「なぜ辞めないんですか?」「例会は楽しいですか?」「増強は必要と思いますか?」「例会出席率の向上のために電話での出席勧誘で、電話される側もする側も、正直ストレスではないですか?」等々なかなか人前で本音で話せないような内容の質問が続き、時にはパネラーではない会場の会員や時他支部会員やオブザーバーにまでマイクが渡され、素晴らしい熱のこもった盛り上がりとなりました。90分と長丁場でしたが、皆さんあっという間に感じた様です。

懇親会でも、テーブルごとに例会のテーマの話題で盛り上がり、4名もの会員が来年度班長になりたい!と立候補されました。

通常とは違った形となりましたが、非常に実りある例会だったと思います。

(文責 中原 一也)

大村支部 例会報告

日 時	9月14日(水) 18:30
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	人在から人財へ ～人が育つ経営とは～
報 告 者	得田プロセス管理経営 代表者 得田 稔 会員



人事評価を中心とした社員教育に関する内容でした。県の例会委員会を中心とした他支部会員、J C、Y E Gからも多数のオブザーバー参加をいただきました。

冒頭の自己紹介では、コンピュータプログラマ、システムエンジニアとしての経歴の他、メーカーでの勤務で管理部門に長年在籍していた経験から現在のコンサルティングという仕事につながったという話がありました。また、メーカーに入る前に一度プログラミングの会社を立ち上げ、2年ほどで廃業したということも紹介されました。

得田さんが起業を決意したのは、役職定年を迎え、これまでの自分の経験を役立てたいとの思いからでした。メーカーを退職後、山口県の社会保険労務士の門をたたき、福岡県を中心に企業インストラクターやN A G A S A K I 起業家大学での学びを経て、地元長崎に活躍の拠点を移されました。同友会との出会いは、N A G A S A K I 起業家大学での時の知人の紹介でした。

今回のテーマである、「人材」なのか「人在」なのかという表現について、人事評価の在り方が重要であるというお話でした。社員の採用時には「何ができるのか」「何をしたいのか」を期待して「人材」を採用します。入社後の人事評価において、何をどう評価するのかが明確でないと、本人の納得が得られず、やる気の低下や不活性、意欲の低下によりただ存在するだけの「人在」となってしまうということでした。

人事評価を行う目的として、一般的に考えられる処遇の決定のための他、社員のやる気や自発性を引き出すことが重要であるということでした。

社員教育において考えなければならないのは、成り行き型から戦略型への転換が重要であるとのことでした。

た。目標や評価基準を明確にすることで、社員が評価について納得し継続して目標に取り組むことが出来るようになるとのことでした。目標設定においては、経営理念、経営計画を持つことが不可欠ということです。

人事評価を考えるうえで得田さんが苦労した点は、評価の着眼点、評価基準をどうするか、対象の企業、現場に適した内容か、といった点でした。目標、評価の着眼点については、社員のキャリアや役職に応じて段階的に変得ていかないと段階的な成長につながらないということでした。

成功する企業に共通する特徴としては、経営者と社員がともに学ぶ場があること、経営指針の共有がなされていること、自主的な議論ができる風通しの良さ、社員が段階的な成長ができる環境があることという点でした。

グループ発表の中では、評価の前提として経営者自身の方針を明らかにすること（経営理念）が重要であるということ、目標・評価基準を社員に納得してもらうことの重要性を感じたという話がありました。

質問への回答のなかで、人事評価の方法として対象者をよく知る複数人による評価、相互評価、自己による評価といった方法が紹介されました。また、得田さん自身が一度起業した時の失敗した要因が社員教育といった話も紹介されました。

社員の人事評価にあたって、自分の評価について身につまされるといった意見も多かったですが、社員のやる気と自発性を引き出すための方法について、大変有意義な報告でした。

(文責 鮎川 泰輔)



諫早支部 例会報告

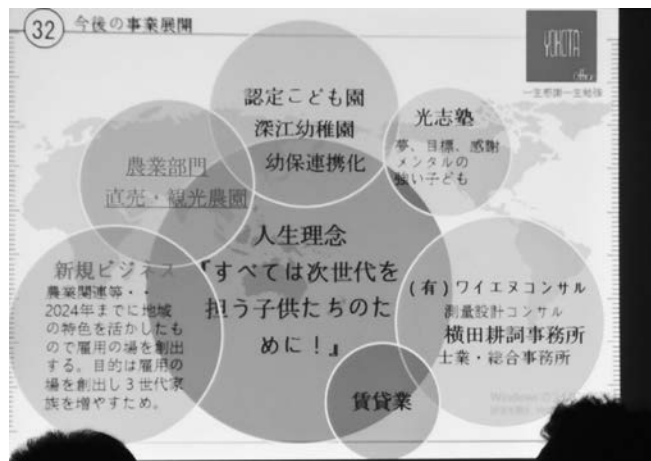
日 時	9月14日(水) 17:50
会 場	学校法人鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学
テ ー マ	今までの経営と、これからのビジョン！ ～何のために仕事をするのか～
報 告 者	(有)ワイエヌコンサル 代表取締役 横田 耕詞 会員(島原支部)



今回は、昨年に引き続き、ウェスレヤン大学内での開催となり、学生や大学の先生方にも大勢出席していただきました。総勢100名にも迫るほどの参加者すべてにとって、大変刺激になる内容でした。

25年カレンダーに代表されるように、超長期の目標を定め、それに向かってたゆまぬ努力で邁進され、会社経営においても順調なようでした。が、「まさか」の同志の退社により、当時の会社の問題点として、自分が先行して会社のビジョンが描けていなかったと挙げられており、スタッフのやりがいを高めるために給与体制や休暇制度を見直されたとのことにお話に、人と人とのつながりの中で同じ方向を見て同じ目標に向かって歩むことの難しさを感じました

横田さんはボランティア活動や地域活動のみならず、ご自分の卒業された小中学校への寄付も継続的に行っておられるそうです。ご自分の成功法則である「いいと思ったことを継続し、習慣化すること」を「会社経営と社会貢献は表裏一体」に基づいて、会社経営にとどまらず実行しておられました。いいと思ったこと



を実行することだけでもなかなかできないと思いますが、それを継続して習慣化する、ということはいかにハードルが高いかと思います。

また、横田さんは人生の理念を「すべては次世代を担う子どもたちのために」と掲げられており、ご自分を駆伝でいうところの一区間の走者にたとえられていました。お父様の代から経営されている保育園に限らず、今年度からは認定こども園をスタートされるなど、子どもたちの教育に対して真摯に向き合い、利潤を問わず取り組まれる姿には、南島原市という地域性も相まって考えさせられるところが大きいにあると同時に、人生の理念があるからこそ「継続して習慣化する」実行力があるのではないかと思います、理念の必要性について考えさせられる例会となりました。

(文責 田中 幸実)

V・ファーレン長崎



 応援マツト

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

廣告募集

< 4 cm x 9 cm >

複数月 割 引	6ヶ月	12,000→10,000
	4ヶ月	8,000→ 7,000
	3ヶ月	6,000→ 5,000

島原支部 例会報告

日 時	9月12日(月) 19:00
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	これが敦子の生きる道(ビジョン)！ ～創業49年にして、初めて出来た羅針盤～
報 告 者	村上彫刻 副代表者 村上 敦子 会員(佐世保支部)



子どもの頃にお母様から教えられた生き方、前職時代の経験、入社後のカルチャーショックから始まりました。そして入会後の多くの会員との関わりや学びを通じて、ご自身の生き方の変化、経営理念や事業計画の作成、会社組織(役割分担)の変更、新商品の開発、経営計画発表会の開催とわずか1年ほどの期間で駆け抜けた様が語られました。

入社後最初に取り組まれたのが、商品の幅を広げることと会計帳簿の作成。会計帳簿が全くなく売上高さえ解からないという、前職時代では考えられない真逆の環境で村上彫刻でのキャリアが始まったそうです。

昨年6月の入会後は、多くの会員との関わりあいを通じて、あきらめないこと、行動してみることに、謙虚に耳を傾けることを身をもって経験。さらには、子供との関わり方といったことまで学ばれたそうです。

商品開発については、事務局→葬儀業者→製陶業者と同友会のコネクションを最大限に活用。「刻印骨壺」という新商品の発売にこぎつけられたそうです。

入会3か月で経営計画書を作成、さらにその3か月後には経営計画発表会を開催と学びを即実践される吸収力とそのスピード感には驚かされました。これらの取り組みにより売り上げも好転、社内の雰囲気も良くなったそうです。さらには、経営革新支援の承認を得るまでになられたそうです。

良いもの・必要なものを見つける感性。失敗を恐れぬ行動力。素直に人の話を聴ける謙虚さ。使えるものは何でも使ってやり遂げる粘り強さと強い信念。事業者に必要な行動特性を多く兼備されている方だと感じました。また、代表であるご主人や従業員の皆様とはよく話をされ、同じ方向を向いて価値を共有されているそうです。ご主人は、村上さんが外で見聞きしてきたことに興味をもって聞いてくださるそうです。「共に考え、共に成長し、共に喜ぶ組織づくり」という目標の実現に向けて邁進されている様子が感じ取られました。



報告前の紹介口上で、座長の橋口久さん(佐世保支部)が、「村上さんが1年生時代に実践してきたことを報告します。皆様のこれまでの活動の物差しにして下さい。これから1年どのようにやっていくのか考えてみて下さい。」と話されました。何ひとつ出来ないわが身には耳が痛いお話で、実践こそ全てと反省した次第です。グループディスカッションの時も、「行動すれば次がある」、「自分も昔は行動的だった」、「自分の感性が鈍ってきている」、との声も漏れ聞こえました。

村上さんと橋口さんが、「会員の要望相談に応えられる会にしよう」という同友会のスローガンに触れていましたが、まさにこれは同友会の存在意義のひとつです。同友会には様々な分野のプロフェッショナルが大勢いらっしゃいます。多くの会員を巻き込んで同友会の活用促進、経営理念の重要性を認識した例会となりました。

(文責 梅澤 浩)

投稿募集のご案内

DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。

●文字数/約500字

●画像/歓迎します

☐掲載/情報広報委員会にて選考

☐投稿先/情報広報委員または同友会事務局まで

☐メール/jimu@nagasaki.doyu.jp



佐世保支部 例会報告

日 時	9月23日(金) 18:30
会 場	佐世保市民会館
テ ー マ	怒りの経営 ～これが洋市の生きる道(ビジョン)～
報 告 者	(株)野田武一商店 代表取締役 野田 洋市 会員



今回の野田さんの報告を迎えるにあたり3回のシミュレーションを行いました。よって誰を誘って来られても皆様が納得される例会に成る事を確信していました。

怒りの経営とありますが、高校3年生の時に長崎県空手道場大会にて高校の部で優勝され、これで国体に出場出来ると思いきや出場したのは3位の選手。まず「恨み」、必ず長崎県を見返してやるとの決意。

2番目に「年を越せないかもしれない」と母の独り言を聞き、空手の先生に話したら、年末に先生から連絡があり「正月は自分たち外出していないのでこれらって」と年越しの食材をいっぱいいただく。両親に報告すると両親がポロポロと涙を流し、それを見て人の心の暖かさを教えてもらう。

3番目は、3代目のお父さんが亡くなられた時に取引商社から取引解消され「やめるなら今ですよ」と言われいつか見てろよ!と怒ります。

2年前に4代目の社長である母から受け継がれ5代目社長として今まで苦労された思いを元にアイディア



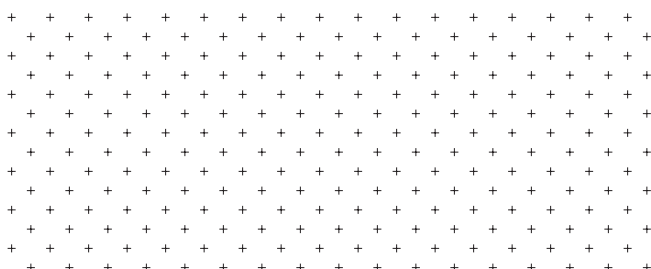
商品の開発、人の協力による材料・機械の調達、障がい者雇用によるローソク作り、お線香の販売など、今から野田さんは長崎から九州・全国へと大きく飛び出そうとされています。

野田さんの周りには先輩、後輩と多くの仲間の支えがあります。苦労や苦難を克服しそれを感謝と受け止められ全てプラス思考で前向きに突き進む野田さん、大学時代着実に空手が上達され、大分代表として国体に出場し、その結果により、長崎県から長崎代表での出場のオファーが来た時の話をされ、例会の参加者に質問されました。「長崎県からの国体出場の要請をあなたは受けますか？」会場からは「受けない」「断る」の意見が多い中、野田さんがとった行動は「はい、よろこんで」だったそうです。野田さんは長崎県代表として活躍されました。

このような報告を聞き過去の事を受け入れる大きな器をお持ちだと感じました。

最後に皆さんが協力したくなるお人柄を益々磨き夢をつかまれて下さい。報告誠に有難うございました。

(文責 江口 陽一)



北松浦支部 例会報告

日 時	9月15日(木) 18:30
会 場	サンパーク吉井
テ ー マ	中小企業の人材採用について
報 告 者	(株)エイコー商事 代表取締役 富川 栄治 会員



①中小企業になぜ人が来ないかという原因の追究、②人材を迎えるための改善、③採用、④採用後の見極めに関して、具体的な事例を踏まえながら富川さんが自社においてが実践するノウハウを惜しみなく報告していただきました。

採用にあたっては外部委託で適性検査を実施し、独自のパンフレットを作成して企業イメージを発信するなど色々な工夫をされているそうです。社員が不安を抱えることなく働くことができる環境を整えるために、法令遵守を前提に就業規則等を常に見直し、採用後も適材適所の人事異動を行うなどの取組みを実践する富川さんは、「社員は宝」と断言します。

トップダウンではなく、常に社員とともに考えるという社長の柔軟な姿勢が、社員に積極性や向上心を芽生えさせ、人材が人財となり、企業全体の環境や体質をプラスの方向へ整えていくのだと大変勉強になる例



会となりました。

また、当日は大村支部の会員の皆さんも経営フォーラムのキャラバンとして例会に参加され、経営フォーラムのみならず会員相互の懇親を一層深めることができました。

(文責 松浦 寛)

五島支部 例会報告

日 時	9月21日(水) 18:30
会 場	観光ビル はたなか
テ ー マ	着目点を変えての事業展開 ～成功例？と失敗例、そしてこれから～
報 告 者	(同)メディアウェブ 代表社員 勝本 政裕 会員

まず自己紹介の後、起業までの経歴について話されました。勝本さんは大学入学の5日ほど前にバイクで大怪我をし、1年間の休学からの大学生活スタートだったそうです。報告当日も左手骨折の中、包帯を巻いての痛々しい姿での報告でした。

起業前には紳士服店で長く勤務され、異業種のケーブルTV会社勤務を経験され、そこでの人との出会いが大きな学びとなったそうです。

IT関連事業での起業後はHP制作、システム開発、ブライダルムービー事業、教育ICT化事業、宅配弁



当事業等様々な分野に取り組み、成功、失敗を重ねられ、ここでも多くの「人」との出会いが勝本さんの事業展開に大きく影響を及ぼされたそうです。

宅配弁当では事業開始から1年ほどは業績も伸び悩み、「もうやめようかな…」という状況だったそうですが、高齢者施設の理事長との出会いにより急激に売り上げUPしたそうで、実績も包み隠さず報告されま



した。

「人との出会い」「現状分析・展望」「信念」をキーワードにまとめられましたが、中でも「現状分析・展

望」が長けているように感じました。事業を成すにあたり、裏付けされた根拠・自信が活発な行動・事業展開を生み出すのだと思います。

グループディスカッションも活発に意見が飛び交い多くの会員、オブザーバーが勝本さんの考え、行動に感銘を受けていたように思います。

勝本さんは遊漁船事業も準備を進められているようですが、個人的には怪我だけが心配でなりません。

今期2人目の支部内報告でしたが、11月には3人目の渡さんの報告を予定しています。少しずつですが五島支部のステップアップを実感できた熱き例会でした。

(文責 谷川 喜一)

青年経営者会 例会報告

日 時	9月22日(木)
会 場	デザインアルジュナ
テ ー マ	夏を終えて残り半年をどうこえるか？ ～楽しく、青経を～
報 告 者	design ARJUNA 代表者 笹田 健一 会員



素晴らしく晴れた秋分の日、企業訪問と懇親交流会を兼ねて行いました。

デザインアルジュナはその名の通りデザイン事務所として事業をされており、今まで携わってきた企画商品や企業へ提案したグッズなどを見ながら仕事の内容や今後について報告していただきました。

現在、自宅兼会社の一室を職場としており、部屋の中はアートブックやデザインブックで溢れている一方、無駄なものは置かず非常にすっきりした空間でした。デザインアルジュナは笹田さんの他にもう一人デザイナーがおられ、主に笹田さんがクライアントの要望や希望をリスニングし、その内容を基にデザイナーがデザインを起こしてクライアントに提案していくというスタイルをとっているとのことでした。

実際に企業へ提案した商品やグッズを紹介していた



だき、一つ一つが形になっていく経緯や商品に込められた想いを熱く語っていただきました。

今後の展開としては、年内に事務所を別の場所に構えて社内の体制も少しずつ変えていきたいということでした。

青年経営者会でも例会部長を務め、例会の内容や青年経営者会ができることなど様々な提案やアイデアを発信し、今後の会の発展・活性化に尽力しておられる笹田さんの人となりといったものをさらに垣間見ることができた大変有意義な企業訪問となりました。

企業訪問後は笹田邸のお庭をお借りして懇親交流会を行い、笹田さんの報告の感想や仕事の内容を自社に置き換えた場合、どういう風にお客様に提案しているのか、お客様のニーズに添えているのかなど大変面白い意見交換ができ、同じ立場である青年経営者同士また一段と懇親を深めることができた熱い一日となりました。

(文責 吉川 裕也)

2016年度 第1回 中同協 経営労働委員会 参加報告

開催日時：9月8日(木)13時～9月9日(金)12時 会場：TKP新橋カンファレンスセンター

第1部 新体制についての説明他。

委員長は引き続き福岡の中山氏を選出
学びから実践への移行を強調されました

第2部 労働環境の整備と魅力ある職場づくり。

ブラック企業の実態の報告がありました。私達と考える方が異なり、人を使い捨てにする企業であり、反面教師と捉え、今迄の人を生かす経営を実践することを確認できました。

第3部 経営指針成文化から実践運動へ。

本年12月改訂される「経営指針成文化と実践の手引き」の改訂ポイントの説明と、各地同友会の経営指針実践運動及び企業変革支援プログラムの活用普及活動の交流がありました。

<報告>

同友会が目指している「企業づくり」で、「労使見

解」が提起する「対等な労使関係を結ぶ」ことのスタートとして「就業規則のガイドライン」の制定が進んでいます。更に、「経営指針成文化と実践の手引き」が改訂されます。大きな改正点は、経営指針の構成を①経営理念、②ビジョン、③経営方針、④経営計画の4つと定義することです。「ビジョン」は経営理念を追求していく過程における10年後の自社の理想的な未来像を具体的に書き表すこととなります。また今回の手引きは実践することを重要視し、そのPDCAのチェックとして企業変革支援プログラムを活用することとなっています。

具体的には、理事会、委員会で報告し、委員会活動で具体的行動計画とまとめていき、「労使見解の理解」から対等な関係づくりの「就業規則」、そして企業経営の羅針盤である「経営指針」の実践へと委員会活動を活性化していきます。

(文責 経営労働委員長 宇土 敏郎)

中同協 第44回 青年経営者全国交流会 in 石川 参加報告

開催日：9月15・16日(木・金) 会場：ホテル日航金沢、本多の森ホール

テーマ：つどえ傾奇者！歴史は一步一步に新たな創造である われわれ青年経営者で世界に誇れる日本の未来を創ろう！

第1分科会

青年部活動と企業経営は不離一体！

パネリスト

(株)中部テクノ 代表取締役 愛知同友会 **山口 雅樹 氏**

信和油圧工業(株) 代表取締役 兵庫同友会 **金城 剛 氏**

(株)BRAS T 代表取締役 千葉同友会 **柏原 英輝 氏**

コーディネーター

(有)瀬倉白蟻工業所 代表取締役 熊本同友会 **瀬倉 将司 氏**

青年経営者会 会長 橋本 裕次郎

分科会のテーマは同友会青年部活動でしたが、学んだことは同友会活動、会社経営、長崎の同友会活動のさらなる活性化、すべてに落とし込めることでした。

●同友会での活動、役を積極的にすることにより確実に会社が良くなっていった。役をすることにより視野



や考えが変わり、世界が広がった。そして役をやって自社も良くなったことを皆に伝え、その輪を広げていく。

●忙しいから同友会活動を疎かにしてしまうという言い訳はできない。みんな忙しいのは当たり前だし暇な人が例会や委員会を運営しているわけではない。時間を作っていくのも経営者のセンス。

●同友会では、学ぶだけではなく自社の問題点に気づくことが大切。「何年も会社経営を続けてきたし、ちゃ

んと結果も出ている。さらに学べと言われても。」と思うのではなく、「問題点はないのか？もっとやることがあるのでは？」と現状を疑う気持ちも重要。

アントニオ猪木氏も引退試合の時に言っていました。「人は歩みを止めた時に、そして挑戦をあきらめた時に年老いていくのだと思います。」まさにその通りだと感じました。

二日目は分科会発表や記念講演がありました。青全交が盛会のうちに幕を閉じ、午後からは中同協青年部連絡会に参加しました。各県の青年部の代表者が集まり、青年部の意義と活動内容等について発表しました。特に愛知、兵庫、北海道、千葉、広島青年部がすごく精力的でありとても刺激になりました。青年部のない県もありましたが、これからどんどん立ち上がっていくようです。

青年部活動で若手経営者が集まると、年の離れた人から経営を語られても他人事に聞こえてしまうことでも、年の近い人から活躍の話を聞いてしまうと自分のことに置き換えて考えてしまい、悔しくなって心に火がつくことがあるのです。

まとめとして、青年部活動の意義は「経営者として



の人格形成、人間的成長」「本音で議論しあい、お互い切磋琢磨できる仲間づくり」「同友会活動と企業経営の不離一体を実践」「どんどん行動して外に出て自分の世界とネットワークを広げる」のように思いました。

今回が初めての青年経営者全国交流会でしたが、全国の会員の意見や景気状況を聞けて自分の世界がさらに広がったので、参加して本当に良かったと思いました。今後も全国大会には積極的に参加したいし、もっともって経営環境を良くしていきます。

第14分科会

理念の理解が未来を創る

～計画的承継で気づいた大切なこと～

(株)つくば食品 代表取締役
茨城同友会

八巻 大介 氏

長崎浦上支部 山口 善也

5年間の準備期間を設けて事業継承がなされ、①環境づくり（社内外への告知、株や借金の引き継ぎ）②組織作り（身内だらけの社員から100%新卒採用へ）③人財づくり（経営計画発表会や社内イベントの企画）同友会の学びからこれらを進めていく中で、すべてが順調に進んでいるかに見えた矢先、新卒採用者の相次ぐ退社や幹部との関係の歪みなどの問題が発生。八巻さんはもう一度「なぜ継ぐのか、自分はどんな（会社、経営者、組織、社員）を創っていききたいのか」を明確にし、企業理念の「良い会社にしましょう～常に進化する企業をめざして～」に沿っているかを考えながら一つ一つ解決していきました。

社員の離職率改善の為に学生さんの入社後のギャップを少なくしようと、若手社員に企業説明会をおこなってもらったり、同友会の新入社員研修への参加など想いを伝えて理解してもらえるように取り組まれています。

幹部との歪みについては頻繁に幹部会をおこない方



向性を確認し、創立記念日には会長含め幹部全員でスカイダイビングをして思い出作りをして会話のきっかけを増やし話しやすい幹部会になったそうです。

今後も沢山の取組みをおこない、自社ブランドの開発販売や高専との産学連携など事業承継のその先のつくば食品についてもお話しいただき、長い準備期間とやるべき工程が分かっているにも簡単には事業承継というのは進まないという事をあらためて学ぶ事が出来た報告でした。

その後のグループ討論では①事業承継とは何を継ぐ事ですか？②そのために何を備えて、どういう行動が必要ですか？の2つのテーマについて討論を進めました。①のテーマについては理念やビジョン、歴史や創業者の思いなどを受け継ぐや守るという意見が出され、今後も末永く会社を継続させていく為に必要な理念そして熱い思いを引き継ぐことが大切ではないかというまとめとなり、②のテーマについては人材育成やコミュニケーションなどが必要という意見も上げられたなか、二代目とはいえ第二創業という覚悟をもってやらなければ失敗するという厳しい意見も出され、今あるものに満足せず絶えず進化するために行動することが必要であるというまとめになりました。

私たち、がんばってます！ ～新入社員奮闘記～

2015 年度、長崎同友会初の合同入社式、第 1 期生、福田優茉さん、福田里紗さん（ともに（株）小島工作所：長崎出島支部）、久間有紀さん（（有）自然館：諫早支部）。入社して 1 年が経った「今」取材しました。



株式会社 小島工作所
福田 優茉さん

■仕事で大変なことは何ですか？

いただいた図面をもとに見積もりを作成しますが、細かい数字を拾ったり、材料を一から調べる作業は大変です。一つの見積もりを完成するまで数日かかる場合もあります

が自分で調べて単価を入れるなど少しずつ慣れてきました。複雑な図面でもできる部分からとりかかり、徐々にペースを上げながら自分のスイッチを入れるようにしています。

■どのようなことに仕事のやりがいを感じますか？

目に見える達成感というより、私が作成した見積もりで営業の方が受注できると少しは貢献できたかな、と思うことがあります。また図面から実際に完成した家具を見ると嬉しい気持ちになります。

■今後、仕事に対する思いを教えてください

今までの部門制から新しいチーム体制に変わったばかりなので、今までよりも他のスタッフの方とコミュニケーションが必要になると思います。営業、設計、工場などそれぞれの役割の方と連携しながら仕事を覚え、少しずつ成長していきたいと思っています。



株式会社 小島工作所
福田 里紗さん

■入社して今までを振り返っていかがですか？

私は高校を卒業してすぐ入社しましたが学生の頃とは違い、色々な年齢の方と一緒に仕事をするので生活スタイルの変化に最初は戸惑いました。

また、お給料をいただくことも初めてだったのでとても不思議な気持ちでした。何かあったら母親に相談、車の中で歌う、また、年齢が近い会社のスタッフと話をするなど自分なりのストレス発散方法で頑張っています。

■仕事をする上で工夫していることは何ですか？

日報の入力や工場や営業の方との書類のやり取りなど、一般事務ではありますが色々な部署の方と接する機会が多い仕事です。同じミスをしないよう、ノートにまとめるなど順番や段取りを考えて業務にあたっています。

■今後の抱負を教えてください

私の上司がもうすぐ定年退職を迎えますので少しずつ引継ぎを行っています。上司のように一人で何でもできるようになれるのかプレッシャーを感じていますがとても頼りになる方なので一つひとつ仕事の進め方を学び、盗みながら早く一人前になりたいです。仕事には臨機応変さが大切だと思いますので、責任感を持ち、何事も臨機応変に対応できるよう頑張ります。



有限会社 自然館
久間 有紀さん

■今どんなお仕事をしていますか？

当社の商品はネット販売もしていますが5つあるサイトのうち、一つのサイトをリニューアル中です。そのデザイン担当として、女性向けの

オーガニックや美容商品を取り扱う商品サイトを作成しています。他の仕事をしながらなのでなかなか進みませんが、時間を効率的に使いながら完成に向けて頑張っています。

■自分の成長を感じる部分は？

他の色々な広告物を見て、「自分だったらこんなデザインにする」とアンテナを張るようになりました。いただい

たお給料でフォトショップとパソコンを購入し、自宅でもデザインの勉強をしています。

■今後の目標は？

シンプルなデザインなら誰にも負けないという気持ちで、お客様にとって読みやすい、欲しいと思う商品が目につきやすいサイトをつくっていきたくて考えています。その他、薬事法に関してもお客様に分かりやすい説明文を掲載したいと思っています。サイトは商品を購入したいと思うお客様にとって入口ですので、他のサイトよりも買い物しやすいサイトを研究していきたいです。

■最後に一言

会社の中で一番若いので、若さをアピールしてがんばります。電話の応対や商品知識など、尊敬する先輩スタッフがいますので、これからは今よりももっと仕事を任せてもらえるようなスタッフになりたいです。

長崎浦上支部 共育委員会 リーダーシップセミナー 開催報告

開催日時：6月22日(水) 19:00、7月27日(水) 19:00、9月12日(月) 19:00

会場：長崎カトリックセンター 報告者：(株)マツモト 代表取締役 松本 一孝 会員



長崎浦上支部の共育委員会としては初めての企画セミナー「究極のリーダーシップ」基礎編は、長崎浦上支部会員のみならず、長崎県内各支部ならびにオブザーバー含め、3回のセミナーで延べ132名と大変多くの方に参加いただきました。

第1回目「影響力」では、自分がその場にいないとも皆がやる気になる自立型人材になるために自分がどのように変われば良いかを学び、

第2回目「伝達力」では、相手に「伝える」のではなく「伝わる」ために、意識すべき事や確認すべき事を楽しくワークを交えながら学び、

第3回目「理念経営」では、法人は公器であること、後世まで残る会社をつくるための経営理念には想いの深さや愛が必要なことを学びました。

学び方のコツである笑顔で楽しむ！（本を読む時も笑顔で読んだ方が頭に入るそうです。）を1回目、2回目の講座では存分に体感していただき、参加者の皆さんの笑い声が絶えない講座となりました。3回目の講座では、根源的な学びだったので、それぞれの皆さんが心の深いところで感じ入っていただいた印象があります。

支部共育委員でもある松本さんに今回講師を務めていただきましたが、すでに例会の報告や各方面でのセ



ミナーでたくさんファンがおり、多くの方にお集まりいただきました。今回3回連続の講座+2回の補講でしたが、日本全国のみならず海外まで行き学び続けている松本さんだからこそその引き出しの多さに、まだまだお話を聞きたいとの感想も多く、すでに他支部での例会報告の依頼や、自社での研修依頼のお話しも来るほどの人気ぶり。

実は毎度恒例のナスの被りものにも実は深い意味が…ぜひ知りたい方は松本さんに直接聞いてみて下さいね。

今回、ご参加、ご協力いただいた多くの皆様、本当にありがとうございました。今後も共に育つ学びの場を企画していければと思いますので、引き続き宜しくお願いします。

(文責 長崎浦上支部 共育委員長 大城 あゆみ)

諫早支部 産学連携委員会 学生と経営者懇談会 開催報告

開催日時：9月14日(水) 16:00 会場：長崎ウエスレヤン大学

この企画は、昨年に引き続き開催したウエスレヤン大学での諫早支部例会と合わせて企画したもので、例会前の1時間で、約25名の学生と18名の会員が懇談を行い、会員が各テーブル2～3名ずつに分かれ、

学生がテーブルを廻っていくという形で行いました。

私のテーブルでは、経営者側から学生に聞きたいこと、また、学生から経営者へ聞きたいことを交互に質問していく形で話を進めました。



話を聞く中で、将来の夢や目標をしっかりとって、就職を考えている学生もいれば、まだまだやりたい事が見つからず、将来に不安を感じている学生もいました。その中で感じた事は、ほとんどの学生が、「将来、誰かの役に立ちたい」、「人の役に立てる仕事につきたい」と考えていることでした。自分の学生時代を振り返ってみると、そんな事は考えた事もなく、恥ずかし

い限りです。

また、就職活動で重視する事として、給料よりも、自分の好きな仕事にやりがいを持って働ける会社を重視したいという意見や、交通の便（職場に近い、寮がある等）も重視したいという意見もありました。

今回、学生との懇談会という事で、多くの学生の色々な話を聞く事ができて、今の若い人達がどのような考えを持っているのかを知る事ができ、たいへん良い機会になりました。

しかし、1クール10分間という時間がとても短かったように感じました。反省点として、今後企画する際の参考にしたいと思います。

今回参加された学生にとっても、我々会員にとっても、学生と経営者がふれあう機会はほとんどないと思います。同友会だからこそ出来る取組みの一つではないでしょうか。

（文責 諫早支部 産学連携委員長 廣谷 慎也）

佐世保支部 ダイバーシティ経営委員会主催 視察ツアー 開催報告

開催日：8月10日（水） テーマ：佐世保特別支援学校・先生方の会員企業見学ツアー2016夏

佐世保特別支援学校の先生方を招いて会員企業見学ツアーを開催した。

先生方に会員企業を見学、そして会員（経営者）から生の声を聴いていただき、私たち中小企業の仕事を身近に捉え、一般就労を希望される生徒さんの進路指導に役立てていただく企画であった。

本企画は当委員会独自の発想ではない。2015年10月に愛媛県松山市で開催された「第18回障害者問題全国交流会」の第5分科会「特別支援学校の卒業生が、社長を変える！社員を変える！会社を変える！」で発表された、広島同友会福山支部バリアフリー委員会と福山北特別支援学校との好取組事例をT P P（徹底的にパクリ）したものだ。分科会出席時に「佐世保支部でもやろう」と決意し、佐世保に戻って、支援学校の井上英一進路指導主事と前進路指導主事であった山崎浩先生と打ち合わせを重ね、今回の実施の運びとなった。

今回は7名の会員の企業・事業所（タクミホーム

（株）、（有）カワカミ、（株）広告のアクセス、昌明機工（株）、マザーワートひろた、白山陶器（株）、プライアント（株）を、井上進路指導主事を始め、高等部1年生、2年生の先生7名が訪問した。

訪問先では、会員による事業説明と会社見学の後、障がいのある方の就労を切り口に様々な質問や意見交換が飛び交った。会員企業においては、会員が日常化した業務の中では気づかない、障がいのある方が戦力になる業務フローの一部を、先生方が顕在化できたこともあった。また、先生方が会社見学をすることにより、従業員にも障がいのある方の雇用が身近な存在であることを意識づけられた効果も見られた。先生方においては、経営者が求める人材像を生生の声、そして生の現場で聴くことによって、生徒さんが卒業・就職までに身につけるべき力を具体的にイメージすることができたようだ。

今回のツアーは7名の会員のご協力のもと、大きな成果を収めることができた。しかし、この企画はツアー



タクミホーム（株）



（有）カワカミ



（株）広告のアクセス



昌明機工（株）

実施が最終目的ではない。1社でも多くの佐世保支部会員企業が、障がいのある方の雇用を実現し、実業だけでなく、雇用の面でも地域に必要とされる中小企業を生み出すことを目指している。つまり、今回のツアーは、雇用に結びつく（雇用の意識を上げる）ツアーと位置付けであった。

佐世保特別支援学校では、毎年在校生の「職場体験実習」を実施。市内の企業に数日から数週間通勤し、実際の仕事に触れて就労意識の醸成や就労前の課題発掘ができています。今回のツアーがきっかけとなって、今秋に実施される職場体験実習の受入先として、見学先の会員企



マザーワートひろた

業と初めて提携を結んだと、嬉しいニュースが舞い込んできている。

来年2月例会は、ダイバーシティ経営委員会が座長となるが、障がいのある方の雇用をテーマに、実際に受け入れてみた企業からの報告もご披露できればと企画している。ぜひご期待いただきたい。

(佐世保支部 ダイバーシティ経営委員長 橋口 久)



白山陶器(株)



プライアント(株)

会員活躍

長崎新聞 9月15日 大村支部 徳田 信義 会員

― 社業について。 ―
21年前に県内の5業者が合併。社名には「九州で一番おいしい豆腐をつくる」という思いを込めました。豆腐づくりの命ともいえる水にこだわり、多良岳の山あいに工場を構え、1日当たり約6万5千〜約7万丁の製造・販売を手掛けています。お客さまの健康に良い物を提供しようと、可能な限り食品添加物を控え、安心、安全な製品づくりのために日々努力を重ねています。

九一庵食品協業組合理事長

徳田 信義さん(67)



おいしい豆腐を追求

8月に開かれた「第1回九州・沖縄地区豆腐品評会」で、「濃くコク豆腐」と「九州一絹ごし豆腐」が銀、銅賞を獲得。10月の全国豆腐品評会への出品が決まり、味を追求する姿勢が一定の評価を得ました。今後も消費者が求める製品の開発を続けるとともに、九州・沖縄のローカルな地域にも浸透を図り、将来的には関西圏まで販路拡大を目指しています。

九一庵食品協業組合(大村市東大村2丁目) 1995年創業。従業員は165人(パート含む)。「濃くコク豆腐」「九州一絹ごし豆腐」などが看板商品。

長崎新聞 9月17日 長崎浦上支部 荒木 健治 会員

チョープロ

来年秋稼働 一般家庭600世帯分

牛ふんでバイオガス発電

液化石油ガス(LPG)販売大手チョープロ(西彼長与町 荒木健治社長)は、牛ふんや茶の残りかすなどを利用した「バイオガス発電」事業に着手する。来年秋に福岡県久留米市で始め、数年内に県内でも事業を開始する。発電した全量を電力小売り全面自由化に伴い設立した「長崎地域電力」に売電し、同社の販売電力における再生可能エネルギーの比率を80%以上まで高める。

バイオガス発電は廃棄物を発酵させてメタンガスを燃料とするバイオマスを生成し、ガスで発電機を駆動させる。牛ふんなどビンを回す。同時に発生する熱をヒートパワースタッフの暖房などに活用できる。牛ふんは一般に堆肥として処理されるが、処理に伴う畜産農家の負担は労力や人件費などの面で大きいとされ、チョープロは「うまくいけば、農業の新しいビジネスチャンス創出になり」と期待を寄せる。

バイオガス発電を展開する。太陽光発電の熱をヒートパワースタッフの暖房などに活用できる。牛ふんは一般に堆肥として処理されるが、処理に伴う畜産農家の負担は労力や人件費などの面で大きいとされ、チョープロは「うまくいけば、農業の新しいビジネスチャンス創出になり」と期待を寄せる。

るに当たり、先進国ドイツのシステムを国内輸入総販売元と久留米市で乳牛約200頭を飼育する畜産農家と連携。来10月をめどに、約3千平方メートルの同農家敷地内に発電施設1基を建設。早ければ10月から稼働を始める。年間発電量は約288万6千キロワット時(一般家庭約600世帯相当)。投資額は約6億円を見込む。

チョープロは県内13カ所で大規模太陽光発電所(メガソーラー)を展開。長崎地域電力が4月に一般家庭向けの電力小売り事業に参入し、主にメガソーラーで得た電力を県内の家庭や事業所など約1200件に販売しているが、太陽光発電

の稼働は日中のみで、夜間電力は卸電力市場から調達していた。バイオガス発電事業が順調に進めば、全体の60%を占める再生可能エネルギーの比率が80〜90%まで高まるという。経営者らは再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)で、メタン発酵ガスを使ったバイオマスを発電の買い取り価格をI

(小山健太)

事務局企業訪問

今回は、長崎浦上支部長としてたいへんご活躍中の吉澤 健さんにお話を伺いました。



＜事業内容＞

数百万から数千万もする船はそう簡単には売れる商品ではありません。それをいかに買いたくなる仕掛けづくりをするか、そこが吉澤さんの腕の見せ所です。

「レジャーボートの販売」をメインに「ボート免許取得教室開催」をされていることは把握していたものの、「エンジン・部品の販売」「船の修理」「船の管理」等々、ひとことで言えば、(株)ヤマハマリン西九州の事業内容は「マリンレジャーに関するあらゆること」でした。

船体は40～50年も耐久性はあるそうですが、エンジンは10数年毎に代替え需要があるそうです。

エリアは、長崎・佐賀。両県の販売店さんを大切にされています。吉澤さんは熱く語られました。「私たちは販売活動を応援するのではなく、販売店さんが困っていることを一緒に解決することに注力しています。」お役立ちの精神こそ、いかなる企業の原点だと私は思いました。

＜同友会との出会い・関わり＞

吉澤さんは、2010年11月入会。10月に開催された経営フォーラムにオブザーバーとして参加されました。そのきっかけとなったのは、東京商工リサーチ「TSR情報」に掲載された経営フォーラムの告知。まさに運命的な出会いではなかったのでしょうか。諫早観光ホテル道具屋の分科会会場に颯爽と入ってこられた吉澤さんの姿を私は今でも鮮明に覚えています。

当時、吉澤さんは悩まれていました。ヤマハ発動機(株)の営業マンとしての手腕を高く評価され、(株)ヤマハマリン西九州の代表取締役役に抜擢されるも、「社長」と言うよりも「営業部長」として自分の経験をもとに厳しく部下に接する毎日。ついに、営業会議中に退職願を提出されるに至りました。

時間が許す限り出席を続けた各支部の例会で社長の役割に気付き、少しずつ会社の雰囲気に変化が現れて来ました。全国大会にもほぼレギュラー参加され、



すばらしい航跡



インターシップ中の学生さんと

「TTP」「不離一体シート」を学び、即実践されるというその後のご活躍は皆さん誰もが知る通りです。

その後、各支部からの例会報告の依頼が続きました。この様に吉澤さんは、「学び→実践→報告(会への還元)→さらに学ぶ」という「同友会の学びのサイクル」を確立されました。

＜課題＞

最も大きな課題は、やはり「人」の問題だそうです。次世代を担う人材育成、そしてまた技術の伝承・強化にどう取り組んで行くか。働き方が大きく変化している現在において、平成生まれの人たちにいかに活躍してもらおうか等々。

その対応のために、今期(10月～翌9月)からの5ヶ年計画で、変化に対応できる強い企業づくりを推進。「20年カレンダー」を活用し採用計画を立てられ、10月1日付けで男性社員の採用に至りました。

＜感動の種をまく＞

吉澤さんが常に考えていることは、経営理念にも掲げられている「感動の種をまく」ということです。

お客様も自分たちも楽しみながら、海のファンづくりを行っていく。そのためには、「目先ではなく、コツコツと5年・10年先のお客様を見つけることが大切」と吉澤さんは述べられました。そしてこう続けられました。「お客様も私たちも誰もが幸せになるために。」

今回、すばらしい海風香る中、レジャーボートに試乗させていただき、非日常の世界を味わうことができました。まさに感動の世界です。楽しさと嬉しさと顔は緩みっぱなし。ボート中に笑顔の花が咲き乱れていました。皆さんもぜひ試乗されてみてはいかがでしょうか？ 吉澤さん お忙しい中、本当にありがとうございました。

＜(株)ヤマハマリン西九州＞

「事業内容」 マリンレジャーに関するあらゆること
「経営理念」

一、感動の種をまこう 笑顔の花を咲かせよう
そして幸せの輪をひろげよう

一、私達はマリンファン創造活動を通じて、お客様にとって魅力あるマリンライフのアドバイザーを目指します

「社員数」 13名

〒851-2107 西彼杵郡時津町久留里郷1439-10

電話：095-882-1829 FAX：095-882-4070

11月例会案内

●長崎浦上支部・青年経営者会 合同例会

日 時 11月26日(土) 18:00
会 場 長崎新聞文化ホール アストピア
テ ー マ グループ長研修例会
報 告 者 (株)ジョイントかんさい 副社長
関戸 崇司 氏(兵庫同友会)

グループ長の本来の意義、技術を学び、例会の質の向上を図ります。

●長崎出島支部

日 時 11月16日(水) 18:00
会 場 サンプリエール
テ ー マ 未定
報 告 者 (株)観月 代表取締役社長
吉田 大祐 会員

●大村支部

日 時 11月18日(金) 18:30
会 場 長崎インターナショナルホテル
テ ー マ (仮題)年中夢求!百姓から百笑へ
～物は売らずに夢を売る経営とは～
報 告 者 (有)シュシュ 代表取締役
山口 成美 会員

●諫早支部

日 時 11月16日(水)
会 場 諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ 経営体験報告会員は辞書の1ページです。第7弾
～当社はこんな仕事をおこなってます。～
報 告 者 (有)嶋崎建設 専務取締役
嶋崎 祐樹 会員

●島原支部

日 時 11月17日(木) 19:00
会 場 HOTEL シーサイド島原
テ ー マ 個から集 職人の強みを生かした組織作り
～次の世代に繋げられる会社になる～
報 告 者 (株)荒木工務店 代表取締役
荒木 博 会員

大学在学中、実家の会社で起こった事件をきっかけに、内定先を蹴って家業への就職。やがて「脱・職人」を掲げ「建築のプロ」を目指す決心を固めたものの、そこに待ち受けていたのは、建築業界に根強く存在する「職人」という概念でした。会社内でその概念と闘いながら地域や職業団体の中で自らが進むべき道を模索する時、同友会と出会い、入会しました。その中で知った経営理念や経営計画書作成によって、会社内で起こった変化とは? それによって見えてきた今後のビジョンとは? 島原支部が誇る人望厚き「熱男」の経営体験報告、是非ともお問い合わせの上、お越し下さいませ!!

●佐世保支部

日 時 11月18日(金)
会 場 波佐見陶磁器工業協同組合
内 容 ※場所を変えての例会運営
波佐見にお邪魔します!
報 告 者 白山陶器(株) 代表取締役
松尾 慶一 会員

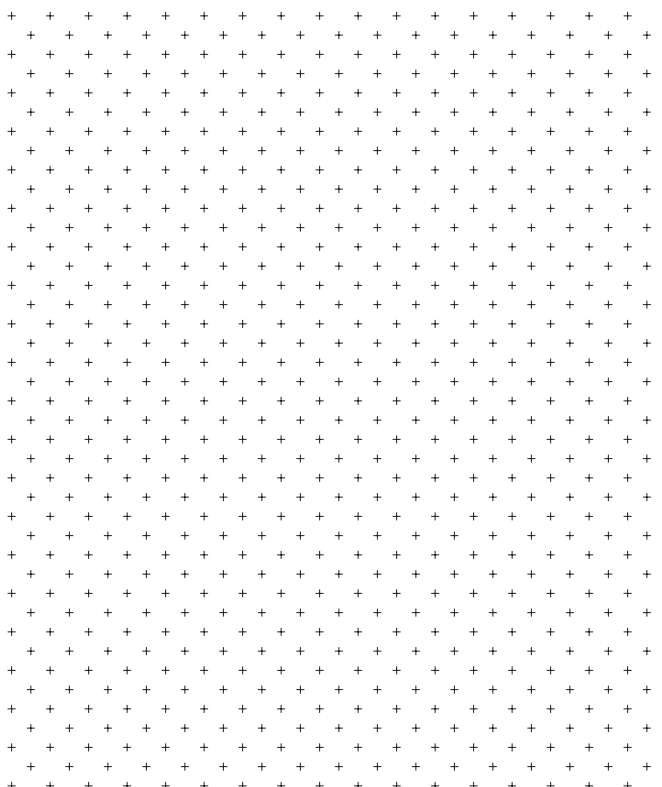
勢いある若手がいる波佐見地区…せっかくなので例会も波佐見でやってみようとなりました。行って・見て・知って同友の輪を上げましょう。

●北松浦支部

日 時 11月17日(木) 18:30
会 場 サンパーク吉井
内 容 未定
報 告 者 (株)稲沢鐵工 代表取締役
稲沢 文員 会員

●五島支部

日 時 11月19日(土) 18:30
会 場 カンパーナホテル(予定)
テ ー マ 日本一新鮮で美味しい魚を提供するために
らしくない漁師の同友会での学び
報 告 者 福栄丸 代表者
渡 慎吾 会員



10月理事会 議事録 抜粋

2016年10月4日(火) つくば倶楽部

開会挨拶－松尾代表理事

先日は佐賀同友会20周年式典に参加させていただきました。佐賀、栃木、鳥取の代表理事のパネルディスカッションでコーディネーターを中岡協松井専務幹事が務められました。各地同友会の取り組みなどを聞くことができ、学びになりましたが松井専務幹事のコーディネートが素晴らしいと感じました。明後日はいいよフォーラムです。大村支部の皆様のお力で300名を突破しています。皆様もフォーラムに参加し当日盛り上げましょう。

仲間づくりについて

－4名の入会、5名の退会、1名の企業名変更を承認

西山仲間づくり委員長総括－

昨日仲間づくり委員会を開催しました。その中で「魅力がある同友会なのか」という意見も出ました。異業種の交流の場があり仕事に繋がるような委員会があってもいいかもしれません。各支部魅力がある同友会づくりを行い、退会者が出ないよう役員会で意見交換なども行ってほしいと思います。今期は「毎日が仲間づくり」というコンセプトのもと活動しています。明後日のフォーラムで600名突破も見えてきました。他団体との交流も含め、委員会としては淡々と活動していきますのでよろしくお願い致します

(松尾代表理事より)現状を鑑み、新入会員などの声をかける「ケア部隊」や「訪問部隊」などが必要ではないかと思います。具体的に実施する仕組みの検討をぜひお願いします。

協議・承認事項

1) 第23回経営フォーラムについて

(前回までの決定事項)

10月6日(木)シーハットおおむら、記念講演－法政大学 坂本光司氏、4分科会、懇親会会場はパークベルズ
テーマ案

「長崎の明日(みらい)を切り拓くのは、人を生かす経営の実践だ!!」
・組織図
・行程表

	第1分科会 (経営戦略)	第2分科会 (社員共育)	第3分科会 (障がい者雇用)	第4分科会 (経営指針) ※見学分科会
報告者	熊本同友会 田中 芳和 会員	長崎出島支部 土井 幸喜 会員	大村支部 宮田 正一 会員 きらく大村 丸山 和美 氏	大村支部 徳田 信義 会員
座長	熊本同友会 田崎 会員	長崎浦上支部 松本 一孝 会員	長崎出島支部 中村 会員	大村支部 金井 政春 会員
室長	大村支部 竹中 会員	大村支部 吉尾 会員	大村支部 北村 会員	大村支部 出口 博 会員

(今回確認分)

3日の実行委員会を受けて確認

→当日の様子をDVDに編集し購入希望の会員に販売する。

来期フォーラム担当支部の確認

※2015年理事会決議事項(大村→長崎浦上→佐世保→諫早→長崎出島
→島原→五島→北松浦)

→来期のフォーラム担当を長崎浦上支部とすることを確認

2) 役員研修会の振り返り

→当日アンケート確認、理事の意見を伺う

(三役会時の意見として)

アンケート結果を参照、今後の役員研修会の組立等に生かす

(意見として)

・あまり参加されていない会員について新しい考えを持つことができ
よかった

・ためになった。今後は役員だけに絞らず一般会員の参加も促し近い存在の役員研修会になればいいと思う

・支部役員の参加をもっと促したい

・テーマを絞り込む、開催回数を増やすなど今後の組み立てに生かしたい

(担当副代表：金井副代表理事)自分たちで手作りの役員研修会になったということが素晴らしいと思う。継続していくことで役員に浸透すると思うので今日の意見を参考に今後の組み立てに生かしていきたい

3) 2017年賀詞交歓会について(2017年1月20日(金))

日程の提案

→松尾代表理事より賀詞交歓会の位置付けを報告いただき内容を確認。

日程に関しては年間予定通り1月20日(金)、会場はサンプリエールとすることを承認

4) 長崎同友会ポスター作成について

→長崎出島支部井口会員のデザインをベースとして提案

※キャッチコピー等は変更の可能性あり

→デザインのベース案を承認。今後内容を詰める

5) 一般社団法人長崎県をつなぐ育成会から無料名義後援依頼について

→ガイドライン上問題なし

→名義後援を承認

報告・連絡事項

1) 9月 県本部・各委員会・各支部等の活動状況について

【経営労働委員会】

・9/28 第4回経営・労働委員会開催 8名参加

1) アンケート回収状況(9/20現在)

浦上35、出島19、諫早26、大村29、島原26、佐世保38、北松浦7、五島4 合計184 31%

経営理念あり 139(76%)、経営指針あり73(40%)

100%回収を目指す(10/30)までに、支部長の皆様の協力をお願いしたい

→アンケート100%回収に向け、各支部のご協力をよろしくお願いします

2) 11月開催の経営理念策定セミナーについて

開催日11/19(土)9:00～17:00、開催場所:諫早つくば倶楽部、参加者:20名予定

募集対象:上記アンケートから、経営指針を作成希望者、フォーラムにてチラシ配布

・9/8～9 第1回中同協 経営労働委員会に参加

1) 活動方針について

8つの活動方針のうち、

2. 強靱な企業体質をつくる「人を生かす経営」の総合実践

(1) 経営指針成文化から実践運動へ、成果の出せる企業づくり実践

「経営指針作成の手引き」→「経営指針成文化と実践の手引き」に12月改訂

(変更点)

1. 労使見解をベースとした経営指針成文化と実践で経営者の自己変革を促し、ビジョンを社員と共有し、労使が高い次元で団結できる企業を増やす

2. 経営指針の構成要素に「ビジョン」が追加

ビジョンは経営理念を追求していく過程における自社の理想的な未来像(ありたい姿)を具体的に書き表したもので、10年先の嫌いを展望する経営指針(経営理念・ビジョン・経営方針・経営計画)

(2) 企業変革支援プログラムの活用と推進

ステップ1は企業変革に必要な要素の整理と成長発展を図るものさし
ステップ2は変革の実践計画と進捗のチェック

「経営指針成文化と実践の手引き」にも明確に位置づけを定義した

5. 労働環境の整備で社員が自主性や創造力を発揮できる企業づくりを－就業規則の作成の促進

経営指針に労働環境の改善を位置付け、就業規則の作成に取り組みましょう

「就業規則作成の手引き(仮称)」作成に向けて会員の実態調査と議論交流を進める

(感想)

・全国から比べて「経営指針の作成」と言う視点では長崎は遅れていることを痛感した

・会員企業が成長発展するための羅針盤である「経営指針」、具体的な活動内容と成果のチェックである「企業変革支援プログラム」を推進するための活動内容の検討を委員会で行なっていきたい
※宇土委員長より詳細の報告あり。今後委員会として運動を推進していくことを確認

3) 例会について(更なる例会の充実をめざして)－山口例会委員長
9月の各支部例会は参加率、返信率共に伸び悩んでいるようです。委員会報告にもあるように、支部例会を全支部に案内する際、日時の重複があっても情報として案内します。また来期の各支部例会について、各支部の事情で毎月第3、第4の平日開催が多いと思いますが、来期可能であれば支部例会の重複を避け他支部例会にも参加できるように調整できればと思います。年度末になるとスケジュール調整が難しくなりますので今のうちから各支部役員会で第1、第2希望の開催日を検討いただき、事務局まで情報を集約いただければと思いますのでぜひ検討ください。

4) 中同協 主要行事の紹介

5) 10月28日(水)長崎財務事務所業務説明会参加者について
→松尾代表理事が参加

6) 11月長崎浦上支部・青年経営者会合同例会について
→11月26日(土)に合同例会を開催。内容は兵庫同友会の関戸さんを招きグループ長研修例会とする。また来年2月3日は福岡にて九州・沖縄の青年部で合同例会開催

7) 9月2日(金)中小企業支援に関する意見交換会参加報告
(吉澤支部長)弁護士が中小企業の役に立てる、といった説明があった。無料相談などもしていただけるので今後弁護士の方々と中小企業の関係がもっと近くなるとのこと。また中小企業法律支援センターもあり30分無料相談も可能とのこと

8) 9月16日(金) 中同協 青年部連絡会参加報告
→全国の活動状況などを共有できた。会勢などもバラバラだが皆さんの熱がすごく刺激を受けた。長崎の青経にフィードバックし全国の流れを取り入れていきたい

9) 9月23日(金)中小企業等経営強化法お概要と「経営力向上計画」セミナー参加報告
(松尾代表理事)経営力向上計画を取得することによりあらゆる分野での支援に関して有利になるという説明を受けた
→今後情報があれば事務局から発信していく

10) 9月23・24日(金・土)中同協 役員研修会参加報告
(金井副代表理事)90分＋グループディスカッションの内容が3講義あり非常にボリュームがある内容だった。その中で役員は会員の手本となり、黒字企業であること、地域に認められ会員の相談に乗れるような存在であること。また役をおりたら会活動に参加しなくなるのではなく語り部になることが大事。そのためにも役員研修会を活用し学びを続けていきましょう

(峰事務局次長)トップリーダー3つの共通性①学ぶことに謙虚。素直に

吸収し、貪欲 ②限らない挑戦を続けること。これでいいと思わず企業の限らない可能性を見つける ③常に大きな視点で社会と世界を見る。というキーワードを学んだ。また今私達がいる環境は諸先輩方がつくりあげてきた歴史の上にいることに感謝する。来期の役員研修会はこのボリュームある内容を大村にて開催されますのでぜひご参加よろしくお願います

11) 9月29・30日(木・金)九州・沖縄ブロック事務局長会議参加報告
→各地同友会の課題等を共有。今後九州・沖縄ブロックの代表者会議を通じて随時報告

12) 9月30日(金)佐賀同友会 20周年記念行事参加報告
(松尾代表理事)冒頭の挨拶時に述べました。追加として佐賀同友会は若手の農業関係者が多いということが印象に残ります

(峰事務局次長)3つの同友会の代表理事の報告に関して、各地の取り組みなどを聞くことができ学びになった。また佐賀同友会から感謝として中同協や九州沖縄の事務局にプレートをいただいた

13) 会費3ヶ月滞納者について－なし

14) その他：中村こずえ会員厚生労働大臣表彰受賞の件
→全国で21社の受賞でした。他の企業は大企業が多かったなかでの受賞でしたのでとてもありがたく思います。また福岡同友会のバリアフリー委員会からの推薦で来年福岡での講演依頼もいただきました。同友会に入っていればこそと思いますので感謝しています

留意事項

1) 2017年中同協役員研修会について－5月開催予定。今後は代表者会議で進捗を協議する
→大村で開催することを決定(2015年11月理事会)

2) 2019年中小企業問題全国研究集会(全研)について
ニュー長…立食1000名、椅子800名、分科会対応約5室
ベストウェスタン…立食1000名、椅子900名、
分科会対応最大6室
※中同協確認事項最大1000名(上限を設ける)でも全国大会開催可能
→長崎市で開催することを決定(2015年11月理事会)
※実行委員長の検討開始

閉会あいさつ－金井副代表理事

台風が接近するなか本日は遅くまでお疲れ様でした。宇土委員長や山口委員長から委員会に関する報告、提案があり非常に活発な議論と明るい話題が多い理事会だったと思います。一方仲間づくりが苦戦していますので6日のフォーラムで多数参加されるオブザーバーをしっかりとフォローし仲間づくり委員会をバックアップしていきましょう。

※次回日程－11月理事会 11月2日(水) 19:00～

会員消息

●企業住所等変更

池本 淳一 会員 (長崎浦上支部)
新住所：〒851-2211 長崎市京泊2丁目4-38

本多 邦暁 会員 (長崎出島支部)
新会社名：曉建設(株)
新役職：代表取締役

永吉 秀行 会員 (佐世保支部)
新会社名：SHG

会 員 数 (10月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	138	115	80	100	70	145	55	32	735
期首	113	88	68	73	56	122	44	25	589
現在	107	85	70	72	59	123	44	25	585

退 会 者 (敬称略)

会 員 名	会 社 名	支部名	入会年月
永 田 勝 美	社会医療法人 健友会	長 崎 浦 上	2013年 4月
松 尾 智 彦	(有)ホームズ	長 崎 浦 上	2009年 3月
北 川 秀 昭	ソフトエンジニアリング(同)	長 崎 出 島	2013年12月
木 村 学	キムラ消毒	大 村	2014年 4月
白 濱 博 隆	ダイニング&釜飯 Jin	諫 早	1997年 4月